

## 【下山さん意見】

50 回に関する岡崎さんからのアンケートの回答です。

指揮、ソロ、ハーブの人選については、この演奏会をどういう位置づけで行うかをはっきりさせ、それに基づいて人選するのがよいと思います。

位置付けとしては、次の2つがあると思います。

①倉敷の市民オケとして、地元とのつながりを意識し、節目となる50回を記念するような演奏会にする。

②上記のようなことは意識せず、単に大きな曲、有名ソリストを呼ぶ機会とだけ考える。

①地元とのつながり、50周年を意識する場合、

ピアニストは倉敷ゆかりの方をお願いするのがよいと思います。具体的には、牛田智大さん、松本和将さん、有森博さんなど（他にもおられると思います）

指揮者も優秀かつゆかりの方がおられればその方をお願いするのがよいと思いますが、具体的には思い当たりません。ただ、有名な方であっても、倉管と合わないとせっかくの記念演奏会がうまくいかないかもしれないので、できればある程度わかっている方がよいと思います。例えば、前回につづき松井先生でもよいと思います。下野先生はアマチュアの指導もうまい方だと聞いたことがあり、広響の音楽監督として中国地方にゆかりがあるのでよいかもしれません。

ハーブは、この位置づけの場合、長年団員として活動されていた功績を評価し、報いる意味で、竹村さんを第一優先にすべきだと思います。ただし、今回はハーブ2台なので2人目の奏者をどう選ぶか等も含めて竹村さんと要相談と思います。

②単なる大きな演奏会という位置づけの場合、

ピアニストは団員の皆さんが共演してみたい方を選べばよいと思います。

指揮者も同様ですが、倉管を受け入れてくれるアマチュアの指導が得意な方がよいと思います。

ハーブは特にありませんが、費用も考慮するなら中国地方、関西圏の方がよいと思います。ただ、幻想はハーブが非常に重要なので、ゲネ本ではリスクが高いと思います。指揮者の意向も確認すべきと思います。

ちなみに、私の希望は①です。団員の皆さんは①②どちらが多いのでしょうか？

ピアニスト候補について、少し調べてみましたが、候補にあげていただいた方は牛田さんを除き、畏れ多いレベルと思います。

小林さんは産休中かもしれませんが、他の方はいずれもプロオケと多数の演奏会をこなされているようで、海外に拠点があったり、海外演奏会も多い方のようで、現実的に厳しいと思います（もちろん、ダメモトでトライすることに反対はしません）。

このような超人気ソリストの場合、倉管と共演することが彼らにとっても有意義なものでないと忙しいスケジュールを割いてもらうのは難しいと思いますので、何かコネやツテが重要と思います。

とりあえず以上です。よろしくお願いします。